

第 45 回宇都宮市民芸術祭 日本画部門 審査総評

第 45 回宇都宮市民芸術祭 日本画部門には昨年より多い 15 点の応募がありました。全体的にレベルが上がっていたため、すべて入選とさせて頂きました。

特筆すべきは、初出品の方と若い世代の応募者が増えたことで大変喜ばしく思っております。

市民芸術祭賞を受賞した馬新風さんの「《天女》」は、初出品ながら様々なマチエール技法が用いられ色彩にも日本画以外の様式から学ぼうという意欲が感じられる作品です。ただ真似るだけでなく自分の作品に昇華しようとしているところに好感が持てます。

準市民芸術祭賞を受賞された手塚美津子さんの「思い出の大正池」は、池の淵に佇んでいるかのように感じる事ができ、観る者の心を鎮めてくれる作品です。同じく準市民芸術祭賞を受賞された識習知さんの「ジャーニー／Journey」は、軽石などの粒子の荒い絵具が効果的に使われ、粒度差による奥行きが表現されています。

奨励賞には 4 作品が選ばれました。黒澤一枝さんの「胡蝶蘭」は、市松模様の背景に描かれた胡蝶蘭の丁寧なしごとに好感が持てます。枝村慎哉さんの「祈 悪病平癒 多氣山不動尊図」は、鮮やかな配色のバランスに向上が見受けられました。HUANG ZEJUN さんの「Flower」は、直線と曲線を組み合わせた大胆な構図が活きています。チョ シンさんの「鳶尾」は、掛け軸のような画面構成に使われている銀箔が美しい作品です。

秀作には、半田守可さんの「南の島のバス停」、ZHOU RUXIN さんの「《天鵝船》」、エン ソクさんの「喰う」が選ばれました。

今回から色紙の出品ができるようになりましたが、残念ながら応募者がおりませんでした。選択の幅が広がりましたので、来年度は多くの方に応募していただけることを祈ります。

審査長 阿良山 早苗